# 図書だより

〈第15号〉
昭和61年10月15日
呉工業高等専門学校
図書委員会

ベニバナセンブリの群落

## 目　次

〔読書感想文〕
「罪と罰」（ドフトエフスキー）……1A　樫本　寿枝 … 2ページ
「美亜へ贈る真珠」（梶尾真治）……4M　岩田　浩史 … 3
「春の鳥」（国木田独歩）……1C　隠地　聖 … 3
二冊の本……4E　天野　実美 … 4
〈哲学書を読んで〉
真理探究の方法ー「方法叙説」（デカルト）……5A　廣本　典幸 … 5
「ツァラトゥストラはこう言った」を読んでー同書（ニーチェ）…5E　三川　昭宏 … 6
道徳の最高原理の究明ー「道徳形而上学原論」（カント）……5M　金丸　茂樹 … 6
現代の思潮、実存主義とはー「実存主義とは何か」（サルトル）…5C　坂本　和則 … 7
〈私の読書論〉
自分の読書体験 ……3E　小島　節子 … 9
私と読書 ……3C　塩田　純次 … 9
〔郷土の自然〕
校内のベニバナセンブリ ……一般科目教官　茶木　正吉 …10
〔随想〕
初代校長　故葛西重男先生を偲びて ……校　長　西　正任 …11
〔一冊の本〕
「生きがいについて」（神谷美恵子）…… 13
〔図書館を訪ねて〕
呉女子短大図書館 …… 13
図書館業務電算化の構想 ……電気工学科　図書委員　鈴村　信也 …14
分類目録の利用方法（利用案内シリーズ２）…… 16
新着図書案内 …… 18
編集後記 …… 25

（表紙写真は「呉の文化財」呉市教育委員会編より転載）

# 読書感想文

## 「罪と罰」
（ドストエフスキー）

1A　樫本寿枝

この物語は、1860年代のレニングラード（ロシア）を舞台として、貧しさから殺人という罪を犯した青年ラスコーリニコフが、良心にせめられその罪をあがなうために自首をし、罰を受けるまでを描いたものです。私は、この本を読んで人間の心の弱さ、そして良心の重さを思い知らされました。

貧しいために大学を除籍になったラスコーリニコフは、思慮がたりず、考えがぐらついているために、筋の通らぬ理論にとりつかれ、一挙に自分のいまわしい境遇から脱け出そうと決心するのです。彼は高利貸をしている強欲な老婆を殺して、盗んだ金で苦しい生活を送っている母や妹を幸福にしようと決意します。

強欲で意地悪な、あと1カ月で死ぬかもしれない病弱な老婆を殺す計画を立てる彼にとっては、貧しい人人を助ける、母や妹を幸福にするという意味でよい行いをしているつもりなのだが、実際には人の生命を断つという、最大の罪を犯しているのに気が付かなかったのです。

そして、彼は高利貸の老婆だけでなく、目撃者のイザヴュータまで殺してしまうのだが、彼は何の疑いもかけられず、無事に1カ月すぎ去ったのだ。がしかし良心がこれを許すわけないのです。そして、この良心が彼を苦しめ続ける。そんな彼の前に現れたのが、悲惨な生き方を強いられている、娼婦ソーニャでした。

その後、彼はソーニャのあまりにも熱心な信仰心によって、自分の犯した罪をつぐなうために自分の足で監獄へ向かって歩いていくのだった。

この最後のシーンを読んで、私は彼の人生はどうなったのだろうか、とふと考えてしまいました。極端な貧しい生活、母と妹のためにとした殺人。もっともこれは彼が間違った考え方をしたためだが、結局は進むべき道を踏み違えたということだと思います。高利貸の老婆を殺して金を盗むという方法とは別に、もっと正当な手段があったはずなのに、楽な方へと流れてしまったのです。やはり、どんな時でも、それが正しいのか、正しくないのかはっきり言いきれる判断力が必要だと思います。

それから、私は彼がソーニャと出合えた事は、幸運だったと思います。もし、あのまま彼は良心の重みに1人で耐えていると、自殺しかねないからです。現に彼は川へ行き自殺を考えるのですが、思いとどまります。これはソーニャに会ったためです。不幸な境遇の中にいながら、神への信仰心を忘れないソーニャの優しい心によって、彼の冷え固まった心は溶かされていったのだと私は思う。

私は、この物語から、ふっとした心のすきに入りこんでくる悪と、それの誘惑にあまりにも弱い人の心、そして、罪を犯した人々を苦しめる良心、そしてつぐない、これらを知りました。だれもが持っている心の弱さ、それに入り込む悪に立ち向かうだけの強い意志を持ちたいものだ。

○「図書室では静粛に」

○「読んだ本はもとの位置へ」

○「帯出期間を守ろう」

○「図書室での飲食はやめよう」

## 「美亜へ贈る真珠」

（梶尾真治）

4M　岩　田　浩　史

過去から現在へ、現在から未来へ移り変る時。泉に投げ込んだ石で起こる波紋のように、ゆっくりとそれでも確実に物事を変化させていく。

もし、二人の恋人の間でその流れが違ったなら、片方の声は、どんなに呼べど相手には届かず、その人の一生が、相手方にはコマ落しの映画のようにしか映らないとしたなら。

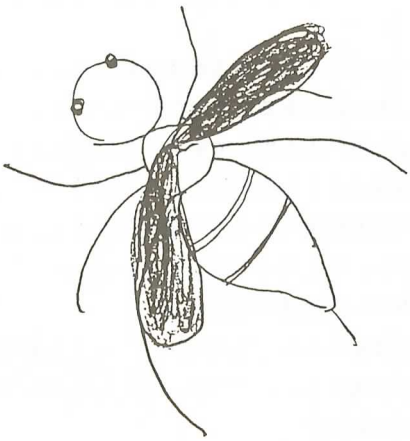
彼の残した物は、わずか六年分の思い出と、少し傷のついた真珠、それだけで彼を信じて。

人を思い、信じる事は誰でもできるでしょう。しかしそれでも時の流れは、それを押し流そうとします。思いは、それによって何時まで耐えて行くのでしょうか、五年、十年。いえ、ほんの一夜にして消え去る事もあるでしょう。

思いの伝わらぬ不確かさ、それでも一生待ち続ける「忠犬ハチ公」。そんなものじゃないと思います。もっと深い何かだと思います。それが何かは、わかりませんが。

話の終わりの方に、こんな台詞があります、「私の一生は、いったい何だったのでしょう。」

悲しい、悲しすぎる物語かもしれませんが、孫に渡された絆としての真珠、それからラストに彼女に贈られた透明に近い感じの、七色に光る美しい真珠。そんなリリカルなシーンが心に残る、そんな話でした。



## 「春の鳥」

（国木田独歩）

1C　隠　地　　聖

この物語は、白痴の哀れさがしみじみと書かれています。何か人々に訴えるような、そして物悲しい物語だと思います。

簡単なあらすじは、ある日の午後、作者がある地方の城山で、十一か十二歳と思われる男の子と出会う事から始まります。その男の子の名は六蔵といい、作者の下宿している家のあるじの田口のおいにあたります。生まれついての白痴であったのです。田口のあるじや少し白痴に近い六蔵の母親は、六蔵を心配し、どうにかして六蔵に幾分の教育を加えることはできないものかと作者に相談します。そこで作者は、この哀れな子のためにずいぶんほねをおってみましたが、目に見えるほどの効果は少しもあがりませんでした。かれこれするうちに翌年の春になり、六蔵の身の上に不慮の災難が起こるという話です。

僕は六蔵が何もわからなくてかわいそうだということよりも、この世に生まれてきたこと自体がかわいそうでたまりません。そして、その母もかわいそうです。どちらがよりかわいそうだということはわかりません。でも、その子の親、少し白痴に近い母がかわいそうでたまりません。

――「六蔵のことでございます。あのようなばかですから、行く先のことも案じられて、それを思うと私は自分のばかをたなにあげて、六蔵のことが気にかかってならないのでございます。」

――「なんだっておまえは鳥のまねなんぞした、え、なんだって石がきから飛んだの……。だって先生がそう言ったよ、六さんは空を飛ぶつもりで天守台の上から飛んだんだって。いくらばかでも鳥のまねをする人がありますかね。」

自然にかえった六蔵、残された母の孤独さ、身につまされる感じです。

六蔵は、人間の子というよりも、自然の中に生まれた子だとしみじみ思います。自然の中に生まれ、自然の中にあのからすとなって飛んで行ったのでしょう。

最後に六蔵が城の天守台から落ちた場面は、この少

年の一生に対して、なんと対照的な劇的な場面だろうと思います。なんの変化もなかった六蔵の生涯に対して、正反対の感じがします。

しかし、それも自分が鳥になったと思って飛んだとしたら、やはり普通の人では考えられないことだと思います。

この物語の舞台となっているところは、この物語にふさわしい、静かな、憂いの多い所だと思います。

## 「二冊の本」

4E　天野実美

たしか、小六の年の暮れのことだったと思います。近所に住んでおられる先生に、二冊の本をいただきました。二年前まで母校の校長をしておられ、非常にかわいがって下さいました。

さて、その二冊の本ですが、昭和二十年代のもので、「日本少年国民文庫」と呼ばれる全十六巻のうちの二冊です。初版は昭和十二年頃の本で、後書きには次のようなことが書かれています。

当時、日本は戦争に向かって、一歩一歩進んでいました。権力に屈した新聞、雑誌は、その力をほめたたえるようになり、ヒットラー、ムッソリーニ達は英雄のように書かれました。子供達にでさえ、日本ほど秀れた国は世界にないという間違った思いあがりを、吹きこんでいたのです。そういう時代に、この悪い影響から子供達を守ろうと、山本有三氏が始められたものです。

何年かぶりにこの本のページをめくることになりました。しかし、残念なことに、当時自分がこの本を読んで何を感じ、何を考えたかという事をほとんど覚えていません。中学での三年間と、全く新しい環境での四年近い生活で、自分なりに大きく変化したと思います。果たして、校長先生は何を伝えたくて、そして自分はそれを受け止める事が出来ているのでしょうか。

『君達はどう生きるか』この本には、〝コペル君とおじさん〟という副題がついています。コペル君というあだ名のある少年が、世の中の事に疑問を感じたり、発見をしたり、友達と行き違ったり、そんな経験をする度におじさんが彼にアドバイスを与えたり、一緒に考えたりしています。さらに、中流以上の家庭の子供達が対象となっているので、話の内容に多少のズレはありますが、それをひいても、大変素晴らしい作品となっています。大人の考え方を押しつけようとすることなくメッセージを伝えるために、事件の度におじさんのノートが出て来ます。とりあげられている内容にも、勇気・友情、更には、いじめについても書かれています。それらは、形を変えて、今の時代にも何かをなげかけているように思われました。

もう一冊の本『心に太陽を持て』では、世界中の逸話、美談を集めてあります。ミレー、ニュートン等の著名人も出て来ますが、全く無名の人間、動物も出て来ます。

ここで「心に太陽を持て」という題は、巻頭にあるツェーザル＝フライシュレンという人の詩の題です。彼は、心に太陽を、唇に歌を、他人のために言葉を、と呼びかけています。今となっては、他人の前で口にするにはかなり勇気のいる言葉ですし、貧しさを知らない現在の子供達にとって、何の意味も持たなくなってしまっているのではないかと思います。

この詩の出来た時代（いつかはわかりませんが）や、紹介された戦争直前・戦中の暗い時代、打ちひしがれた戦後、当時の少年達はこの詩を読んで何を思ったでしょうか。しいたげられた生活の中で、夢と希望を持たせるようなやさしくて力強いこの詩は、大きな支えとなったと思います。実は、この本の中に、難破した船から助かった人の話しがあります。

丸太につかまって、波間に浮かんでいた私は、水の冷たさと、闇の恐怖におびえていました。どのくらいたったでしょうか、不意に歌声が聞こえて来ました。私は……。

知っておられる方もあるかも知れませんが、この時の歌が、あの詩であると彼は信じています。

この様に古い本を出して来て、いい加減に紹介しました。内容もほとんどお伝えしませんでした。本当は、このような本があったことを知らなくても、ましてや読む必要も、今となってはなくなりました。この本と現実とのズレに戸惑うばかりです。

「時代は変わった。」誰もが知っている言葉でしょう。そしてその通りです。だけど、何だかさみしさを感じる今日この頃です。

# 哲学書を読んで

## 「方法序説」

（デカルト著　落合太郎訳）

5A　廣　本　典　幸

―真理探究の方法―

「人生いかに生きるべきか」、哲学の主題ともいうべきこの問いは、我々人間の主題であるといっても過言ではない。しかし、人間は各々が異なった人生を歩んでいる。それ故、哲学に関しても、各々異なった見解を示すのではないだろうか？　愛について挙げてみると、アガペー・エロース・フィリア……。宗教に至っては、キリスト教、ヒンズー教、イスラム教など数知れない。このように考える時、哲学とは、最も多岐多様な知識の集結といえる。

ところで、諸々の事象において、永遠の真理とはこのように統一性のないものでよいのか？　いや、真理といわれるものは普遍的性質を持つのであって、速断と偏見によって築かれた知識は真理とはいえないのである。デカルトは、『方法序説』において、そのような誤った知識を除去するための四つの準則を提示している。

第一「私が明証的に真であると認めた上でなくては、いかなるものをも真として受け入れないこと。」

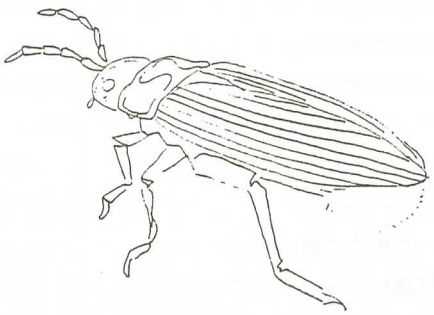
第二「私が吟味する問題の各々をできる限り多くの、しかもその問題をいっそう都合よく解くのに要求されるだけの小部分に分割すること。」

第三「私の思考を順序に従って、最も単純な対象から始めて、最も複雑な対象の認識にまで登るように導くこと。」

第四「何ものをも見落とすことがなかったと確信しうるほどに、完全な枚挙と全体にわたる見直しとをあらゆる場合に行うこと。」

一見、しごくあたりまえのことを言っているに過ぎないと思える。が、深く考察してみると、この四つの準則を使いこなすには、優れた論証力、分析力、総合力が要求されると思う。これら準則の内容をいかに把握し、いかに使いこなすかが大切なのである。この四つのうち、普遍的真理を追求する上で、デカルトが最も重きをなしたのは第一の準則だろう。数学の分野では、この準則は当然ともいえる規則であって、容易に取り扱われるものである。が、人生における善（真理）を探求するところの哲学に適用するには、長い時間と多大な労力が必要であるはずだ。数学者でもあったデカルトは、それを「方法的懐疑」を用いて徹底した。ほんの少しでも「疑い」を含むと思われるものは全て捨て去り、どこにも「疑い」をはさむ余地のないものが、何か残りはしないだろうか考えたのである。そして、そう考えている「自分」は何かであることが必要であることに気付いたデカルトは、これをもって「われ思う、故にわれ在り」という明らかな真理を求めることができたのだった。本来は、ここでこの真理について言及すべきであろうが、僕自身最も共鳴した部分について、これから述べたいと思う。それは、デカルトを懐疑へ至らしめたといえる論拠であり、要約すると次のようになる。

「人間の感覚は、しばしば誤っていることがある――錯覚もそのうちの1つの現象である。また、経験的知識や――一般常識も正しい認識であるとはいえない。つまり、人間は確かな認識によって生きているよりは、むしろ習慣や常識によって生きているということである。それ故、自己の理性にのみ従うことが、最も確かな認識へと導くのであると気づいた。そのために、自己の中に根をはっている先入観を捨て、謙虚な心で書物を理解すべきである。」



自分の理性にのみ従うということ、それは人の意見によって自己の判断を誤らないことであって、自分なりの考え方を確立することである。世間では良書と呼ばれるものであっても必ずしも正しい内容であるとは限らない。正しいか、正しくないか、真であるかないかは、自分で決定すべきである。哲学書を読むこと、つまり、過去の優れた人々の思想を学ぶことは、自己の生き方を吟味する一つの手段ともいえる。それによって僕達は、より善く生きることができるのである。デカルト自身、読者が『方法序説』に接する際の心構えをその中で次のように述べている。「この書を1つの歴史物語として、あるいは、1つの寓話としてのみ私は提示しているにすぎないのであって、つまりそこには、見倣ってもらってもよい幾つかの事例に混じって従わないことに理のある幾つもの事例もまたおそらく見出されるであろうから、この書は或る人々には有用であっても、誰にも害を及ぼすことがないであろうと、私は期待しているのである。」

## 「ツァラトゥストラはこう言った」

（岩波文庫）

（ニーチェ著　氷上英廣訳）

5E　三　川　和　宏

私が『ツァラトゥストラはこう言った』の名を最初に耳にしたのは、映画『2001年宇宙の旅（2001A Space Odyssey）』のテーマ曲のタイトルとしてである。当然、リヒャルト・シュトラウスの『交響詩「ツァラトゥストラはかく語りき」（私の持っているレコードではこう訳してある。）』である。その後は、芥川龍之介の自伝的小説『大導寺信輔の半生 ── 或精神的風景画 ──』に於てである。ここでの大導寺信輔は即ち芥川自身に置換えられるのであるが、この小説が本当の自伝ではないので、全てを事実とするのには多少とも抵抗があるが、『ツァラトゥストラ』は、若き頃の彼の愛読書であったようだ。しかし、晩年には、『聖書』やクリストに対する関心が深まった為か、さほどの想い入れもなく、ニーチェに対しても「これはツァラトゥストラの詩人ニーチェです。その聖徒は聖徒自身の造った超人に救いを求めました。が、やはり救われずに気違いになってしまったのです。若し気違いにならなかったとすれば、或は聖徒の数へはいることも出来なかったかも知れませ。……」（『河童』）と冷やかである。このニーチェ批判とともに芥川は晩年の著『侏儒の言葉』の中で「聖書、一人の知慧は民族の知慧に若かない。唯もう少し簡潔であれば。…」と『聖書』に対しては実に好意的である。

さて、私自身、『ツァラトゥストラはこう言った』を読んで感じたことを考えてみよう。

やはり、前半の一切の既成価値の逆転或は破壊といった部分に衝撃を覚えた。しかし、これも長々と繰り返されては、こちらも困惑するし、少々愛想も尽きるというものなので困ってしまう。

次に感じたのは、解説にも触れてあったが、音楽との密接なつながりである。これは、この本の文章形態が、ある意味で詩のようであるから、増々そう感じたのかもしれないが、この部分には強くひかれた。いくつかのモチーフが波のように寄せては返す様は圧巻であった。これは、音楽でいうところのリフレインのように心地よいものである。唯モチーフはあくまでモチーフであり作品の全てではないのであるが……。

更に私は、この作品を読み進んでいくうちにルイス・キャロルの『不思議の国のアリス』との共通性とでもいうべきものを痛感せずにはいられなくなったのである。では、ここで私の感じたその共通性を二、三挙げて見ることにしよう。まず一つには、その物語の進展が主人公（アリスとツァラトゥストラ）の冒険的な行動により行われているという点。二つ目はこの二人の批判的な考えが随所に盛込まれている点。三つ目は物語の進行に伴い、主人公の身辺が次第に混乱を呈して来る部分である。こういうのは他の作品でもよくあることと思う方があるかもしれないが、私にはまるで鏡にでも映した実像と虚像ぐらいにこの二作品が感じられるのである。ちなみに『不思議の国のアリス』が出版されたのが一八六五年、『ツァラトゥストラはこう言った』が一八八三年である。

さて、最後にニーチェの本作品は私が読んだ岩波文庫の氷上英廣氏訳のもの以外にも数多く邦訳が出されているのであるが、今回これを読むにあたった動機を示しておくと、実際本作品の訳書は難解な文章に数多くの注を加えてある場合が多いのに、氷上氏が訳されたものは注も無く、簡潔で比較的わかりやすい文章である点が気に入ったからである。

## 「道徳形而上学原論」

（岩波文庫）

（カント著　篠田英雄訳）

5M　金　丸　茂　樹

**―道徳の最高原理の究明―**

このカント著作の『道徳形而上学原論』を読んでみると、主旨は、道徳の最高原理を究明する点にあることがわかる。そしてカントは、この本の中で道徳の最高原理を段階的に究明している。

カントは、まず始めに考え方の基本を私達の心のうちにある「善意志」に求めている。そしてこの世界だけでなく、この世界の外でも絶対に善なるものは、私達の善意志だけであり、一人一人の能力や才能、性格がどんなにすぐれていても、善なる意志をその根底に置かない限り、使い方次第ではいつ悪に変じないとも限らない。現にそういう事例は、私達がいつも眼前に見るところである。ゆえに一切の善行為は、私達の善なる意志からおこり、それ以外のいかなる起源をもつものではないとカントは述べている。

しかし善意志という根本的な考え方にとどまっているのでは、哲学には発展しないのでここで義務の概念を導入し、道徳的法則に発展している。この道徳的法則とは、私達人間の理性から出生したものである。

私達人間の意志が、残念ながら善と悪とを兼ねていることは、自分自身の日常生活を考えてみると明らかである。善を欲しながら、いろいろな事情や環境の影響を受けて、しばしば悪に陥らざるを得ないのが人間の本性である。そこで道徳的法則がこのような意志に命令し私達に強制的となるのである。

ところでこの道徳的法則とは何から出生したものであろうか。それは天や神から与えられたものではなく、私達自身の理性に由来するものである。理性は道徳的法則を創造して自分自身に課する。これを意志の自律というのである。そして私達が道徳的法則に服従しこれによって自分の意志を規定し、この世において絶対に善なる行為、あるいは少なくともかかる善を志す行為を発生させることより他に高貴な原理はあり得ない。ゆえに意志の自律が道徳の最高原理である。

またカントは、この本の中で哲学に関して、「客観的な、すなわち全ての人が認めるような哲学の体系は具体的には存在しない。したがって哲学は学習されるものではなく、哲学的に考えることだけを学び得るのである。」と述べている。

私はこの本から、道徳の最高原理は、私達自身の理性が道徳的法則を創造し自分自身に与えるものであることを学び得た。そして、哲学についての根本的、本質的なカントの考え方が少しは理解できたような気がする。

## 「実存主義とは何か ―実存主義はヒュマニズムである―」

（人文書院）

（ジャン・ポール・サルトル著）

5C　坂　本　和　則

**―現代の思潮、実存主義とは―**

「哲学は時代の子」と言われるように、その当時の哲学というものは、その時代の矛盾する点に光をあて、これをいかに克服するかということについて説いているものが多いように思われる。

現代に生きる私達にとってどんな哲学が現代をよく表現しているだろうかと考えた時に、「実存主義」がうかんでいた。

私の読んだこの本、「実存主義とは何か」は、一九四五年にサルトルがパリのクラブ、マントナンで『実存主義はヒューマニズムか？』と題する講演を行った、その時の講演の速記が次の年『実存主義はヒューマニズムである』という断定形の表題で出版された。それがこれである。

文章は講演であるので平易ではあるが、その内容は少々私にとっては難解であった。すべてについてまとめて述べるのは大変なのでその主たる部分について、私の心にひびくものがあったものを捨って書いてみることにする。

サルトルは実存主義を、神は存在しないとする無神論的実存主義と、それと正反対の有神論的実存主義とに区別した。サルトルは前者である。

それでは「実存主義」というものはどんなものであるのか。実存主義とは「事物の存在」とは異なる「人間存在」の特有なありかたを、あくまでも守りぬこうとする思想的文学的な動きである。

サルトルは神を否定したが、それは彼が定義した、「実存は本質に先立つ」によるものである。

つまりサルトルによると、人間にあっては実存が本質に先立つ、人間の本質をあらかじめ規定するような神は存在しない。人間はその限りでいつも自由に自己を創造していくほかなく、その創造の責任をみずからに引き受けなければならない存在である、というわけである。

サルトルは、人間は自由そのものであるといい、一般道徳は存在しないという。それでは人が他人を殺そうとする場合はどうなるのか。この場合サルトルは、個人的行為は全人類をアンガジェするのだと答える。アンガジェとは「(約束や義務によって人を)しばる」とか「(人をあることに)参加させる」とかいう意味であるが、とくに人を自分のなかにだけとじこもらず、社会に参加させるという意味に使うことが多い。

つまり、人が他人を殺そうとする時にその行為は、すべての人が他人を殺そうとすることを認めたことになり、他人が自分を殺そうとする行為に対して文句が言えない。

またその行為が、例えば若さゆえの情熱による行為であるとしてもこれを退け、人間は自分の情熱にも責任があるのだとする。

実存主義において最も大切だとされるのは、「行為」「行動」である。例えば本文中にこういうのがある。

「周囲の事情が私に不利だったのだ。私は現実の私よりはるかに価値のある人間だった。むろん私は熱烈な恋愛も大きな友情ももたなかったが、それは、それに値するほどの男または女に私が出会わなかったからだ。私は大した本も書かなかった。そうする暇が私にはなかったからだ。私には献身すべき子供ができなかったが、それはともに一生を送る男性がみつからなかったからだ。だから私のなかには沢山の素質や傾向や可能性が活用されず、しかも完全に生きて残っている。それらは私の行為のたんなる系列からは引きだせない一つの価値を私に与えるのだ。」

さてこのような人に対してサルトルはどう答えるか。それはこうである。

「実存主義者にとっては、形成されつつある恋愛のほかに恋愛はなく、恋愛のなかにあらわれる可能性のほかに恋愛の可能性はなく、芸術作品のなかに表現される天才以外に天才はないのである」と彼は答えるのである。

日ごろなにかと「学校がおもしろくない」という人に対して、サルトルは、あなたは、あなたが学校がおもしろくないという点に関して責任があるというのです。

つまり、あなたにむかって、希望はあなたの行動(例えば学校生活)のなかにしかなく、人間を生かす唯一のものは行為(例えば学校生活での)であると説くのです。

現代はともすると一人の人間としての価値が希薄になり、人間が組織の中で1つの歯車の意味しかないような状況ですが、そういう時代だからこそ、サルトルのような「少なくとも自分で自分に恥じるような態度だけはとりたくない。」という姿勢と、彼の老年にいたるまで個体としての自己の開発に賭けた生涯は、私達がまだまだ学ぶべき多くの事を含んでいると思うのです。

○「図書室では静粛に」

○「読んだ本はもとの位置へ」

○「帯出期間を守ろう」

○「図書室での飲食はやめよう」

# 私の読書論

## 「自分の読書体験」

3E　小島節子

読む量、時間的に普通だと思う。しかし、3年になって友達が役員をやり始めて、時間が空いた。電車でも3年目の電車通学ともなれば、乗客や景色をみるのも飽きてくる。考えてみれば、今は全部、そんな時間は何か本を読んでいる。冊数になると、この頃は3日で1冊……くらいだろう。もちろん、本の厚みに反比例する。

どちらかと言えば、人の死を扱うものを多く読んでいる。最近は特に「10代の自殺」なる点で共通した文面が多い。他にミステリーやサスペンス風な殺人もの、病気などの闘病記、遺作、等々。もう1つ、共通しているものと言えば、話の中心人物が自分と同じくらいの人間であること。やはりその方が自然に話の中に入っていけるからだろう。それに、中心人物になりきった時でも、全く考え方に無理がない。

本の内容としては暗すぎるかもしれない。けれども、そういった死を扱うものというのは、思春期と言われる今の時期に読んでこそ、生命の大切さを感じられるのではないだろうか。事実、死を考えることは人間なら一度はあると思う。そんな時、私ならこのような本に描かれている周りの様子を思い浮かべるだろう。重ねて自分の周りのあらゆる物事をもう一度見直してみようとするかもしれない。

今私は、過ぎてしまった事実に基づいて書かれた記録を読んでいる。現実に本の中に入り込むことは不可能だが、同じ人間によって描かれた世界、人間として著者は私達に何を知ってもらいたいのか、読書の目的はそれだと思う。ただ淡々と文字を追うだけよりも、自分に似合いそうな言葉を探すのも面白い。長編のミステリー小説などでは、その一言が事件を解く鍵となることが、私の場合、たまにある。

## 「私と読書」

3C　塩田純次

僕が読む本のジャンルは、圧倒的に歴史に関するものが多い。なぜなら、僕個人が歴史という分野が好きであるため、もっと多くのことが知りたいという願望があるからだ。

また、歴史といってもその範囲は広いけど、僕が歴史に関する本を読むとき、その目安となるのは人物が誰か、という点である。例えば、僕の好きな人物の一人に、山本五十六という人がいる。この人物は第二次世界大戦の際、連合艦隊長官となり日本海軍を指揮した人だが、当時の歴史的背景から考えると異色の軍人だった。アメリカとの戦争に反対だったのだ。そのいきさつは色々あるので省略するが、昭和初期というにもかかわらず、また軍人である人物なのに戦争には反対であったことを知ったとき、僕の目には山本五十六はとても新鮮で、彼の生き方を知りたいという願いがすぐにあらわれた。

坂本龍馬、勝海舟などのことを初めて知った頃もそうであった。そういう色々な人々について書かれた本を読んで、自分の生き方を見つけることができ、理想の生き方を追求して自分もそれをできるように努力をする。それが、現在の僕と読書の関係である。

ただ、そのようなことから、小説はほとんど読まない。特に、推理小説は今まで一度も読んだことはない。でも、僕はそういう自分の本に対する姿勢を変えるつもりはない。

歴史は人間がしてきた事実であり、人々の生き方もまた事実である。そのような事実を通して僕自身の精神的向上が活性化され、それから得ることのできる感動は、空想や物語ではない、本当の事実からくる感動であるからだ。

感動をおぼえたとき、僕はまた別の人について、歴史についての本を読もうと思うことができ、本の良さ

がわかる瞬間でもある。僕にとっての読書とは、このような関係である。この関係をいつまでも保ち続けたい。

# 郷土の自然

## 「校内のベニバナセンブリ」

（表紙の写真を参照）

一般科教官　茶木正吉

呉高専キャンパス内の芝生の手入には、学校当局も苦労されている。この芝生中の雑草には、帰化植物の種類が多いのに気づく。ニワゼキショウ、コメツブウマコヤシ、ヒメムカシヨモギ、セイヨウタンポポ、ハルジオン、ヒメジヨン、ブタクサ、シロツメクサ、マンテマなどあげればきりがない。当地の温暖な気候が幸いしてか、野草園になっているようである。この雑草と呼ばれている植物の中に、広島市にも他県にもあまりない、また図鑑にもない、呉市阿賀、広町近辺に分布する帰化植物のベニバナセンブリがある。昭和42年10月に呉市天然記念物として指定されている。昭和51年3月に呉市教育委員会より文化財のガイドブックが発行され、この中にベニバナセンブリの侵入

マンテマ

（by　4A　福原則夫）

群落について書かれてある。これによると、ベニバナセンブリの分布地域は、太刀掛優氏の調査にもとづき、呉市指定地は、県立呉商業高校、近畿大学、寿工業、東洋パルプなどの構内などで、いずれも広町の黒瀬川下流のデルタ地域の埋立地である。太刀掛氏が最初にこの花に接したのは昭和33年で、その頃には、仁方トンネル付近一帯にベニバナセンブリの淡紅色の花で埋められていたとのことである。ベニバナセンブリという和名であることは、東京大学名誉教授久内清孝氏の教示によったとのことで、大正時代に一時渡来し、他では絶滅したとのことである。昭和20年以前には、この付近ではみられなかったもので、ヨーロッパ原産のベニバナセンブリが帰化植物としてこの地に着生したのは、おそらくその種子が戦後、この地に進駐してきた英連邦軍の荷物などに付着して持ちこまれたものであろうと推測されている。山口県にも、岡国夫氏ほか、山口県教育財団「山口県植物誌」によれば、少数発見されているが数は少ないとのこと。

ベニバナセンブリはリンドウ科に属する一年生草で、わが国から台湾にかけて分布するシマセンブリに極めて近い。葉は対生し、茎は方形で高さ30～50cm、6～7月開花し、径8mmぐらいの淡紅色の花を開く。ベニ

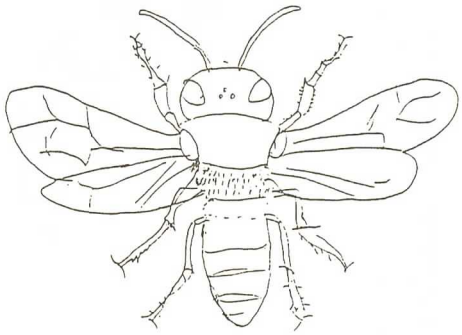
バナセンブリの成分は普通のセンブリと同様で、全草苦味があり、薬用に供している。和名のセンブリは千振の意で、千回振り出してもまだ苦いということから名づけられている。民間薬の健胃剤として、食欲不振、消化不良、胃けいれんなどに乾燥した全草を煎じて飲むことができる。効きめは普通のセンブリよりいまひとつのようである。花粉が散ると葯はねじれる特性をもっており、8月ごろ実は成熟し、狭長な実は二殻片に開裂して種子を飛散させる。

管理上の問題で、呉商業高校の校庭の一隅を指定されたのであるが、ススキなどの成長のはやい雑草がふえており、逆に日かげにおいこまれたベニバナセンブリは次第に減少している。有害な帰化植物が在来の植物を駆逐している一方、折角着生した有用な帰化植物が逆に消滅させられる事実の一つといってよかろう。しかし、このベニバナセンブリの群落が現在本校に多くみられることはよろこばしいようでもあるが、ほとんど雑草として処理されてしまう。保持するためには、その花の群落形成の自然環境をよく研究し、自然のなりゆきにまかして、ただ天然記念物として傍観するのではなく、今後の効果的な管理が必要ではないかと思う。

参　考　文　献


○呉市教育委員会：「呉の文化財」、P.52（1976）

岡国夫ほか：「山口県植物誌」、山口県教育財団、P.441（1972）

# 随　　想

## 「初代校長 故葛西重男先生を偲びて」

校長　西　　正　任

（by　4A　福原則夫）

夏休みも終りに近づいた8月26日朝、初代校長葛西重男先生ご逝去の悲報に接しました。先生には、一昨年の秋、本校20周年の記念式典にご出席頂き、お元気なお姿を拝見致しましたが、この後間もなく病床に臥され、療養生活を続けてこられましたが、此度ご他界になりました。病名は前立腺がん、享年84才でありました。

翌27日午後1時より、広島市幟町のカトリック教会（世界平和記念聖堂）において、多数の参列者の中で盛大にご葬儀が行われました。

先生は、昭和2年東京帝国大学建築学科をご卒業になり、神奈川県技手を初めとし、京城高等工業学校教授、広島大学工学部教授として長年教鞭をとられ、多くの学生の教育指導に当られました。広島大学工学部においては、土木・建築工学科の新設、発展に力を注がれ、後に土木工学科、建築学科の二学科としての改組に貢献されました。先生が工学部から選出された広島大学評議員としてご活躍された頃、私は同じ学部の

共通講座応用物理学講座の助教授で、第二教官会、委員会等で先生のご尊顔を遠くから拝見する程度で、剛毅で古武士のような方であったと思われます。

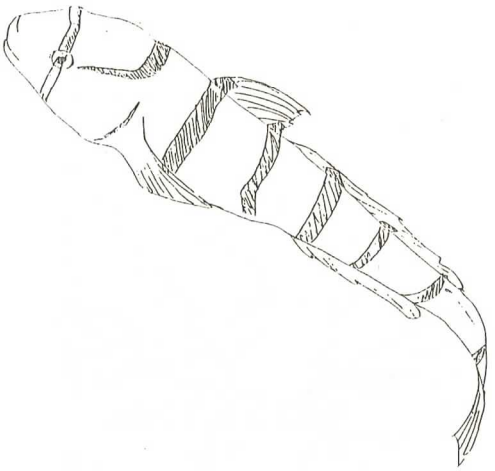
わが国の産業の高度成長に伴い、科学技術教育の振興と有能な技術者の養成が急務となり、昭和37年から国立工業高等専門学校（高専）の設立が始まりましたが、先生は、当時の工学部長山本博先生（8月11日ご逝去）とご一緒に呉高専の設置期成同盟会の設立、さらに呉高専の創設に多大のご尽力を頂いたものと思います。先生は、昭和38年11月30日呉高専校長の内命を受けられ、翌39年4月開校とともに校長に就任されました。爾来昭和50年3月末日ご退官迄の11年間、初代校長として広い学識と豊かなご経験による明確な教育理念と逞しい熱意をもって、建設の希望と苦難に満ちた本校創業の任務に全力を注がれ、学校施設の充実、良き校風の確立に心を砕いて参られました。この間のご労苦の詳細は、先生がご執筆された呉高専10年誌の中の「呉工業高等専門学校10年の歩み」の文の中の随所に表現されています。なかでも、文中「開校当時を思い出すと校長室のガラス窓には蝿がまっ黒に群っており、毎朝百匹ぐらい退治しないと執務できない程であった」等、今日の本校の姿からしては想像を絶するものであったと思われます。

思えば、本校は先生のご努力により、ゆるぎの無い基盤が礎かれ、さらに発展への道が拓かれたものと、改めて敬服の念にたえません。先生は本校をご退官されるに当り、「呉高専の基盤作りという尊い任務に携つたことは生涯の喜びであり、名誉と感じてきた。呉高専の今後については、後半生の最大の関心事となろう」と述べ、離任の辞となされたとお聞きしております。その後は常に本校を暖かく見守って参られ、誠に有難く感謝の限りであります。呉高専は、既に創立22周年を迎えて、着実な成果を挙げ、2千名を越える俊秀は社会の各方面において活躍を続けています。

以上は、先生のご功績の一端、呉高専に関するものについて述べましたが、先生のご専門の建築学の分野においては、「建築物の動的破壊に関する研究」、「広島地区地盤図」、「広島市の建築物の不同沈下」等幾多の研究成果を挙げられ、また日本建築学界中国支部長を再三勤められる等、学界におけるご功績、さらに広島県建築審査会会長、同建築士審査会会長、広島県建築士会顧問、相談役等として、長年、学術の地域的活用・発展に尽された行政面におけるご功績など、先生は各方面において偉大な業績を残してこられました。

毎朝、校長室に掲げてある先生のお写真を拝し、先生の偉大なご功績を偲ぶとともに、先生が本校の創業に当り尽されたご労苦を無にしないよう、呉高専の発展のために微力ながらも貢献すべく、覚悟を新にしています。

ここに心から先生のご逝去を悼み、安らかな眠りにつかれますようご冥福をお祈りします。



# 一　冊　の　本

## 「生きがいについて」

（みすず書房）

（神谷美恵子　著）

家庭的に恵まれなかった少年が、中学、高校とすさんだ生活をしていた。高校を退学し、定時制高校在学中、対立する暴走族と乱闘事件を起こし、相手をナイフで刺して逮捕された少年が、少年院で出会ったのがこの本である。

「何時でも絶望してはいけない。希望を捨ててはいけない。」との問いかけに目が覚め、「大学に行って福祉の仕事をしよう」と決意する。やがて、少年は大学入学検定試験に合格、私立大学に入学した。著者に触発された少年はハンセン病患者の何十年も病気に耐えながら、尊厳を失わない人間の美しさに心打たれ、医者になることを決意した。今春（昭和61年度）3度目の受験で見事国立大学に入学した。

「……なぜ私たちでなくてあなたが……」「生命と愛の重み」をテーマにした少年の卒論は、神谷さんの詩「らいの人に」で始まっている。少年院生活から、ハンセン病患者と出会って医師を志すまでをつづった自分史だ。「限界状況に追いこまれるほど人間は強くなる。耐えること、努力が大切なことを知った。」と少年は言う。1冊の本や人との出会いで人間はこうも変わるものなのか。少年はこの夏、医学部の仲間と瀬戸内海のハンセン病療養所を尋ねる。

（86.5.18　毎日新聞より要約）

# 図書館を訪ねて

## 1：呉女子短期大学図書館

図書主任と図書係3名が梅雨の明けやらぬ7月22日の午前、開学されて間もない呉女子短期大学を訪れた。坂田学長自らのお出ましでいささか恐縮しながら、見学に先立って短大の特徴をお聞きした。女子短大としては全国でも異例な経営情報学科を創設したり、地方自治体との第三セクター方式による設立というユニークな短大として注目を集めている。

呉女子短大は生活学科と経営情報学科の2科を設置して、常勤教官22名、非常勤教官10名、学生数227名で発足している。呉市に設立された短大ではあるが、学生の60％は呉市外出身で、県内はもとより山陰、四国からも入学しており、人気の高さが伺える。学生は卒業すると、秘書士の資格を取得できるということである。

さて、そうした背景を持った短大に設置された図書館は、スマートな建物の3階に、爽やかな潮の香を運ぶ海の風が通り抜け、南に蒼い瀬戸の海、北に緑をたたえた大空山を眺め、荘重な閲覧机を配した快適な環境にあった。蔵書は約10,000冊で、同短大の特徴を反映した経営情報に関するものが目立った。

資料の受入、貸出・返却は「KINO　BIBLOS」システムを採用して電算化されている。（和書、洋書各18,000冊の入力を予定）現在は入力データが少ないせいもあるが、検索は7～8秒で行えるので、図書館の規模によっては有効なシステムと思われる。しかし、検索のキーワードが限定されるのが、難点と見受けられた。当面、利用者は教職員、学生に限るとのことで、高専の学生が利用できないのは残念である。暑い夏の1時間余りの貴重な時間をさいて、ご案内いただいた坂田学長、板垣館長、藤平司書、清水氏に紙上を借りてお礼申し上げます。

なお、下に現在の呉女子短大図書館の概要を記して

第1回のレポートとする。

蔵　書

| | 和　書 | 洋　書 | 合　計 |
|---|---|---|---|
| 図　書 | 7,500冊 | 2,500冊 | 10,000冊 |
| 雑　誌 | 45種 | 38種 | 83種 |

面　積

| 書　庫 | 閲覧室 | レファレンスコーナー | 事務室 |
|---|---|---|---|
| 121.2 m² | 150 m² | 92.4 m² | 32.4 m² |

合計　396 m²

同短大図書館

## 図書館業務電算化の構想

電気工学科図書委員　鈴　村　信　也

近年の半導体技術の急激な進歩により、電子計算機は我々の身近なものとなり、社会生活のあらゆる分野で、急速に浸透しつつある。図書館の側面からみても、今年4月に「学術情報センター」が発足し、全国の大学図書館、研究所などをオンラインで結ぶ全国規模の学術情報システムがスタートしている。

このような新しい時代の波をうけて、本校図書委員会においても、事務部業務の電算化の一環として、図書館業務の電算化に着手した。その電算化の目的は、次に示すようなものである。

(1)　図書及び雑誌の発注・受入・整理業務を自動化し、事務処理の迅速化・省力化を計る。

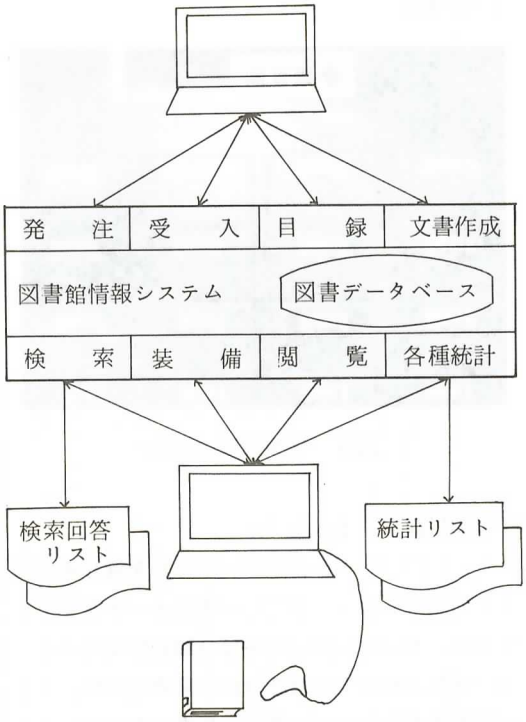
（by　4A　福原則夫）

(2) 図書データをファイル化し、蔵書管理を容易にする。（最終的には、図書カードを廃止する）

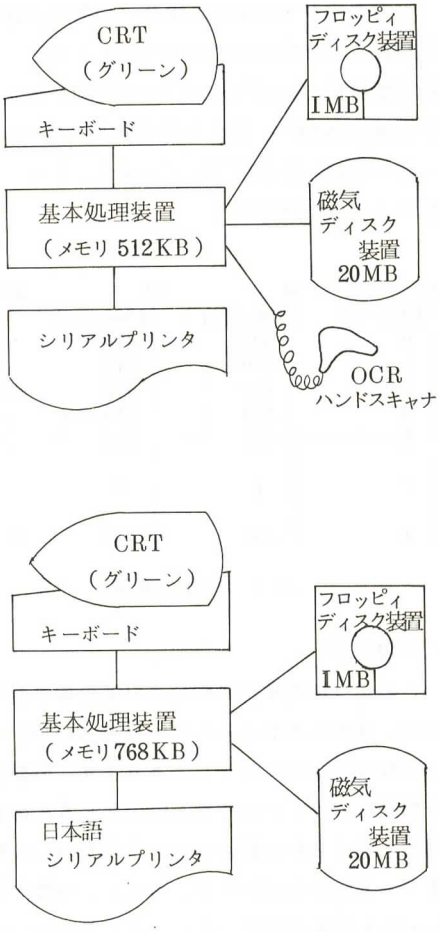
(3) 貸出・返却等の閲覧業務の迅速化・省力化を図る。

(4) 各種統計処理を行い、学生の読書指導、図書購入計画に供する。

これらの目的に対し、種々の検討を行った結果、第1図に示すようなシステム概要のもとに、開発を進めることが決定された。今年3月、第2図に示すようなハードウェア構成の機器が導入され、現在、電気工学科第5学年の卒業研究として、ワーキングチーム（阿部、井口、嶋本、竹井）を結成し、閲覧業務を中心にソフトウェア開発を進めている。




第1図　システム概要図




第2図　ハードウェア構成図

## 利用案内シリーズ 2

分類目録の利用方法

① 分類のしくみ

図書カードを検索する場合、1)著者目録、2)書名目録、3)分類目録の3通りがあります。今回は3)分類目録の利用方法について説明します。本校の図書はNDC（日本十進分類法）により、下図の例のとおりに分類されています。（カード上は類による分類はない）

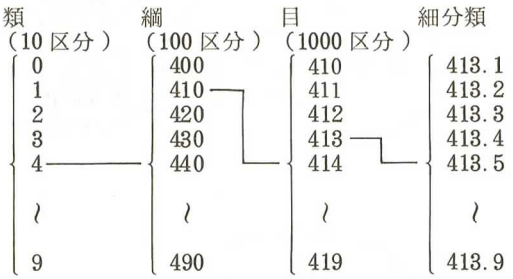



図1　分類の展開

② 分類記号

このように主題毎に細分されて分類されているので、求める本があるか否かは書名が分からなくても探せるように工夫してあります。分類目録の分類記号（カードの左端上段の3～6桁の数字、例外として2桁の数字あり）を見れば、同類の図書カードが並んでいます。つまり、分類記号は我々の住所の番地に相当すると考えればよいのです。本の住所（配架場所）を探す番地（キー）として分類記号を活用してください。

（例）

数　学　→　解析学　→　関数論　→　代数関数論
410　→　413　→　413.5　→　413.59

図2　細区分例（図1参照）

このように上位の概念からより細かい概念まで細かく区分されています。

③ 分類目録

無論、書名が明確な場合は書名目録で、著者名が明確な場合は書名目録で探してもよいのです。しかし、書名ではその書名の本だけ、著者名からは特定著者の著作物しか探せません。（詳しくは次号の図書だより参照）従って、図書室に来て、「○○○関係の本」を探したい時は分類目録を探した方が便利です。「○○○」がどの分類に属しているか分からなければ、カウンターで尋ねてください。そのために係員は首を長くして質問を待っています。

図3　分類目録の外観

④ 分類目録カードの並び方

「○○○」がどの分類に属するかを探しあてるとその記号（数字）の示してあるカードを見てください。カードが並ぶ順序は分類記号順ですが、同一分類記号のときは2段目の著者記号順、分類記号も著者記号も同じ場合、和書は書名の五十音順、洋書は書名のアルファベット順に並んでいます。（図4参照）

⑤ 図書の所在とカードの見方

さて、そうして探し出した図書が何処にあるかを知らなくては目的の本を手にすることはできません。そのためには探し出したカードをもう一度よく見てください。

（図5参照）

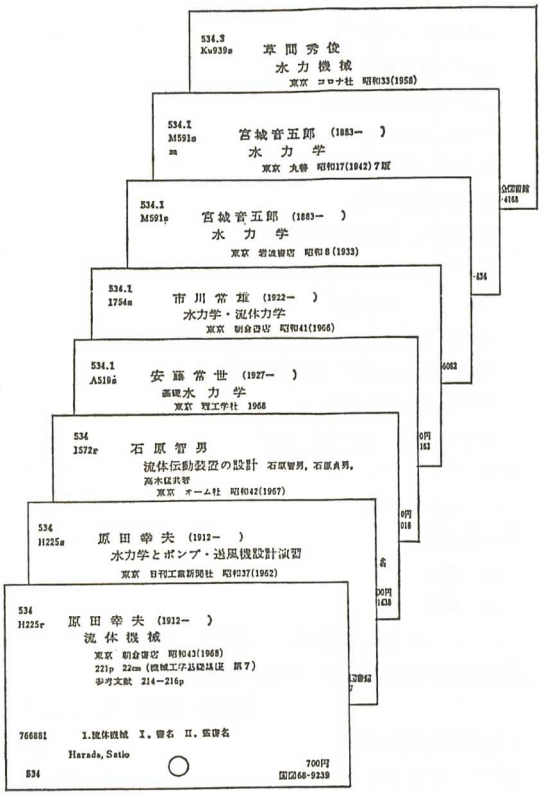



図4　カードの並び方
（「日本図書館学講座　2：資料の分類」を転載）

まず、その本が図書室にあるか、教官室にあるかを見分けてください。図書室にある本は①の欄に、「Ｌ又は図書」の表示があり、教官室にある本には教官名又は学料の表示があります。時折、図書室にある本でも学科表示があることもあるので、必ずカウンターで確認してください。

| | | | |
|---|---|---|---|
| ①所蔵箇所 | ⑧版表示 | ① 図書 | ⑧ 改訂新版 |
| ②分類記号 | ⑨出版地 | ② 501.2 | ⑨ 東京 |
| ③著者記号 | ⑩出版者（社） | ③ T | ⑩ 啓学出版 |
| ④登録番号 | ⑪出版年 | ④ 59030 | ⑪ 1984（3刷） |
| ⑤購入価格 | ⑫ページ数 | ⑤ 1,620円 | ⑫ 223 P |
| ⑥書名 | ⑬大きさ | ⑥ 工業力学の基礎 | ⑬ 21 cm |
| ⑦著・編者名 | ⑭叢書名 | ⑦ 竹之内博次著 | ⑭（だれでもわかる解説と演習） |

図5　カード目録の記載例

# 新着図書案内

（昭和61年2月～7月受け入れ図書室備付分）

## ＞0　総　記＜

岩波講座　情報科学　岩波書店
　7：論理と意味　（長尾　真等）
　13：順序機械　（当麻喜弘等）
　20：信号処理とシステム制御（有本　卓）
　21：パターン認識と図形処理（長尾　真編）
　23：数と式と文の処理　（伊理　正夫編）
　24：生体における情報処理（南雲　仁一編）
情報数学　（廣瀬　健）コロナ社
知識工学入門　（上野　晴樹）オーム社
データベースシステムの基礎（上村　俊亮）　〃
BASICによるグラフィックス入門
　（秋田　宏）共立出版
98グラフィックス入門　（河西　朝雄）技術評論社
研究情報と図書館　（國分　信）丸善
図書館のデザインとスペース計画
　（アーロン・コーエン等）丸善
日本件名図書目録　日外アソシエーツ
　14：文学
　20：自然科学
　21：技術・工学・工業
国立国会図書館所蔵主題別図書目録　〃
　6：社会科学・政治・軍事
　7：法律
　11：自然科学
　12：工学・土木・建築
　13：工業
ブリタニカ国際年鑑　1986　T・B・Sブリタニカ
世界大百科年鑑　1985　平凡社
日本大百科全書8～10　小学館
朝日年鑑　1986　朝日新聞社
朝日選書　〃
　277：動物は地震を予知する
　278：北一輝
　279：ノーベル賞の発想
　280：西郷隆盛紀行
　281：待賢門院璋子の生涯
　282：天皇制の深層
　283：クレムリン権力のドラマ
　284：私の花美術館
　285：メキシコ革命物語
　286：女の戦後史　3：昭和40・50年代
　287：ピラミッド神殿発掘記
　288：シチリア　神々とマフィアの島
　289：パタゴニア自然紀行
　290：正法眼蔵入門
　291：高群逸枝
　292：樹の文化誌
　293：やまとことばの人類学
　294：建築の発想
　295：ドラクロワ
　296：渡辺華山
　297：日本の技術力
　298：エロスと神と収容所
　299：日本人の動物画
　300：心のデザイン
　301：モンゴル大草原遊牧誌
　302：鳥たちの生態学
　303：ピエロの誕生
　304：ゴッホとロートレック
　305：ブルースだってただの唄
　306：エンデと語る
　307：子育ての大脳生理学
岩波セミナーブックス　岩波書店
　17：昭和経済史
新釈漢文体系　明治書院
　26：書経　下
　94：論衡　下
コンピュータ2000語事典　（河合　正榮）弘文社
建築家のための楽しいパソコン学習法
　（西部　明郎）鹿島出版会
十代に何を読んだか　未来社
岩波グラフィックス　岩波書店
　34：西陣織
　35：色と糸と織と
　36：古代の日本と朝鮮

## ＞1　哲　学＜

新・岩波講座　哲学　岩波書店
　3：記号　論理　メタファー
　　（中村雄二郎等）
　6：物質　生命　人間　（村上陽一郎等）
　8：技術　魔術　科学　（坂本賢三等）
　9：身体　感覚　精神　（木田　元等）
　11：社会と歴史　（浜井　修等）
　12：文化のダイナミックス（坂部　恵等）
　13：超越と創造　（竹市明弘等）
ハイデッガー選集　理想社
　33：ロゴス・モイラ・アレーテイア
事例で学ぶ心理学　（足立明久等）勁草書房
認知科学の展望　（D.Aノーマン）産業図書
幻想の未来　（岸田　秀）河出書房新社

表と裏　（土居　健郎）弘　文　堂

## ＞2　歴　史＜

世界現代史　山川出版社
　15：アフリカ現代史　（小田　英郎）
大和に眠る太陽の都　（渡辺　豊和）学芸出版社
無縁・公界・楽　（網野　善彦）平　凡　社
ランダウの生涯　（マイヤ・ベサラブ）東京図書
蘇我蝦夷・入鹿　（門脇　禎二）吉川弘文館
マクスウェルの生涯　（V.P.カルツェフ）東京図書
リーマンとアインシュタインの世界
　（リワノワ）　〃
アーベルの生涯　（O・オア）　〃
ファラデーの生涯　（ハリー・スーチン）　〃
角川日本地名大辞典　角川書店
　39：高知県
　47：沖縄県
日本歴史地名大系　平　凡　社
　15：新潟県の地名
　28：大阪府の地名
ゴルバチョフ　（トーマス・バトソン）徳間書院
広島県万能地図　中国新聞社

## ＞3　社会科学＜

現代のドイツ
　11：ドイツ民主共和国　（大西　健夫）三　修　社
いま日本人であること　（宮田　光雄）岩波書店
環日本海地域の都市問題と都市政策
　（宮本憲一等）大和書房
日本外交史概説　（池井　優）慶應通信
平和事典　勁草書房
リーダーとしての女性そして男性
　（トルーディ・ヘラー）　〃
日本統計年鑑　第35回　昭和60年　日本統計協会
ピーターパンシンドローム（ダン・カイリー）詳　伝　社
講座　現代・女の一生　岩波書店
　2：卒業・就職
林　竹二・天の仕事　（日向　康）講談社
大学の講義法　（D.A.ブライ）玉川大学出版部
さあ横になって食べよう　（B.ルドフスキー）鹿島出版会
日本のすまいの源流　（杉本尚次編）文化出版局
岩波ブックレット　岩波書店
　50：地球規模の男女平等
　51：アパルトヘイト，なぜ？
　52：テレビはこれでよいのか
　53：'90年代の日本経済
　54：「1％問題」と軍縮を考える
　55：荒れ野の40年
　56：教師にのぞむこと
　57：靖国神社
　58：国鉄を考える
　59：シンセサイザーと宇宙
　60：図書館は訴える
　61：ああファミコン現象
　62：国際法からみた北方領土
まるごと広島すきです広島　広　島　県
アメリカ合州国　（本田　勝一）朝日新聞社
知価革命　（堺屋　太一）PHP研究所
時事中国語ハンドブック　（野上　正）東方書店
ヒロシマ，ひとりからの出発（高橋　昭博）筑摩書房
法学入門　（遠藤浩等編）有　斐　閣
六法全書　昭和61年版　〃
帰還兵の散歩　（小林　昇）未　来　社
道は開ける　（D.カーネギー）創　元　社
人を動かす　（　〃　）　〃
タテ社会の人間関係　講談社
日本国勢図会　1986年版　国勢社
ひと夏の家族　（E.クレイグ）主婦の友社
ひとの先祖と子どものおいたち
　（井尻　正二）築地書館
高校時代をどう生きるか　（梅田正己等）高校生文化研究会
地方初級公務員試験合格情報　62年版　実務教育出版
公務員試験論文試験の対策　〃
公務員試験ガイダンス　法学書院
国家試験資格試験全書　1986年版　自由国民社
国家Ⅱ種公務員試験合格情報　62年度版　実務教育出版
公務員採用試験全書　1986　自由国民社
公務員試験オールガイド'86　実務教育出版
公務員試験面接試験の対策　〃
文学・名著300選の解説　一ツ橋書店
大学生の時事・社会常識　〃
大学生の国語常識　〃
大学生の常識百科　〃
大学生用就職一般常識　弘　文　社
大学生用適性検査練習問題　〃
大学生用一般常識重点整理　〃
筆記・面接に役立つ時事・科学用語　一ツ橋書店
一般常識実力診断　〃
女子大・短大一般常識問題　新星出版社
クイズのような常識試験　一ツ橋書店
漢字書き取り・ことわざ　〃
各種試験一般常識問題　弘　文　社
就職試験のための適性検査のすべて　〃
就職受験時事新語　一ツ橋書店
就職試験一般常識対策　〃
作文試験対策　弘　文　社

面接試験対策　弘文社
女性の資格ガイダンス　61年版　法学書院

## ＞4　自然科学＜

自然科学概論　（木村陽二郎）裳華房
科学　これからこうなる　集英社
不可能の証明　（津田　文夫）共立出版
数学ハンドブック　（I.N.ブロンシュテイン）森北出版
岩波数学辞典　岩波書店
図学　（原　正敏）産業図書
数値計算の常識　（伊理正夫等）共立出版
物質と原子　（P. G. ヒューエット）〃
物理学１－２　（大槻　義彦）学術図書出版社
朝永振一郎著作集　みすず書房
別巻１：学問をする姿勢
〃　２：日記・書簡
〃　３：朝永振一郎・人と業績
音の科学文化史　（F.B.ハント）海青社
コンピュータによる熱移動と流れの数値解析
（S.V.パタンカー）森北出版
原子物理学Ⅱ　（E.シュポルスキー）東京図書
グランド・コスモス１－２　旺文社
生きている地球　教育社
気候変動と人間社会　（朝倉　正）岩波書店
湖沼の科学　（A. レルマン編）古今書院
地震と地盤災害　（守屋喜久夫）鹿島出版会
バイオテクノロジー　（丸尾文治編）学会出版センター
バイオエンジニアリング　（H. ヘルテル）朝倉書店
運動と脳　（松波　謙一）紀伊國屋書店
脳の情報処理　（塚原仲晃編）朝倉書店
第三角法図学演習　（磯田　浩）東京大学出版会
理工教養　物理学演習　（松平　升等）培風館
ハテ・なぜだろうの物理学１－３
（J. ウォーカー）〃
エネルギーの話　（竹内　均）日本放送出版協会
ぼくらはガリレオ　岩波書店
化学 One Point　共立出版
17：レーザーと化学　（片山　幹郎）
18：触媒機能　（尾崎　萃）
19：バイオリアクター　（福井三郎等）
20：酸化還元反応とは何か（木村　優）
21：医用高分子材料　（今西　幸男）
コスモス　上・下　（C. セーガン）朝日新聞社
地震のはなし　（浜野　一彦）鹿島出版会
集団生物学入門　（木元新作等）共立出版
発光生物の話　（羽根田弥太）北隆館
ミミズの話　（山口　英二）〃
ダニの話　（青木　淳一）〃
クモの話　（八木沼健夫）北隆館
毒虫の話　（梅谷献二等）〃
ゴキブリの話　（石井象二郎）〃
蚊（カ）の話　（栗原　毅）〃
蛇・トカゲ・亀・ワニ　（高田　栄一）〃
ネズミの話　（宇田川竜男）〃
ビタミンの話　（勝沼恒彦等）東海大学出版会
心臓・血管の病気　（正津　晃）〃
肝臓病の話　（岩村健一郎）〃
スキンケアのすすめ　（小澤　明）〃
皮膚科診察室　（〃）〃
歯と口の病気　（後藤　潤）〃
日光と空気の医学　（鈴木孝之等）〃

## ＞5　工　学＜

材質科学　（野村昭一郎）共立出版
工業力学の基礎　（竹之内博次）啓学出版
グラフィック振動論　（戸川隼人等）サイエンス社
マイコンによるデータ計測　（江川幸一等）培風館
機械技術者のためのセンサ技術入門
（佐野　清人）日刊工業新聞社
伝熱学特論　（甲藤好郎等）養賢堂
大学講義熱力学　（佐藤　俊）丸善
工業熱力学　（谷下　市松）裳華房
構造物のクリープ　（J. フルト）培風館
メカニックス入門　（奥村　敦史）共立出版
線形破壊力学入門　（岡村　弘之）培風館
非金属材料　（菊地喜久男）パワー社
基礎図学　（川村　文雄）培風館
図形の描き方　（兼元　和美）パワー社
製図マニュアル　日本規格協会
スケッチからの工業イラスト（竹村　俊彦）東京電機大学出版局
技術史を拓いた人々１－２　日刊工業新聞社
講座　日本技術の社会史　日本評論社
２：塩業・漁業
８：交通・運輸
21世紀に向けての科学技術　（茅　陽一編）共立出版
工学基礎講座
16：流れの力学　（相原　康彦）培風館
信頼性概論　（塩見　弘）東京電機大学出版局
グレート・デザイン物語　（J. ダブリン）丸善
工学基礎　図学と製図　（磯田　浩等）サイエンス社
超への挑戦　日刊工業新聞社
工学的な発想　（合田周平編）三修社
西澤潤一の独創開発論　（西澤　潤一）工業調査会
土木工学大系　彰国社
１：土木工学概説　（高橋　裕等）
３：自然環境論Ⅱ　（宮脇　昭等）

4：自然環境論Ⅲ　（高橋　裕等）
8：土質力学　（石原研而等）
15：設計論　（伊藤　学等）
21：都市環境論　（伊藤　滋等）
25：ケーススタディ交通1（鹿島　茂等）
26：　〃　2（鈴木忠義等）
29：ケーススタディ国土保全
（高橋　裕等）
30：ケーススタディ観光・レクリェーション計画　（鈴木忠義等）
32：ケーススタディ橋　（佐々木道夫等）
34：ケーススタディ土構造（赤木俊允等）

グラフィックス・くらしと土木　オーム社
1：国づくりのあゆみ　（高橋　裕等）
2：山と川と海　（中川博次等）
3：交通　（加藤　晃等）
4：エネルギー　（千秋信一等）
5：トンネル　（野口　功等）
6：ダム　（藤井敏夫等）
8：都市　（樋口忠彦等）

新体系土木工学　技報堂出版
23：移動床流れの水理　（中川博次等）
25：流体力　（荻原　国宏）
42：橋梁上部構造－吊橋　（澤井　廣之）
48：土木行政と関連制度　（新谷　洋二）

建設計画と地形・地質　土質工学会
土木技術者のための現地踏査（島　博保等）鹿島出版会
土と基礎の物理探査　土質工学会
土質工学の基礎演習　（P.L.キャパー等）技報堂出版
土砂災害の予知と対策　土質工学会
緑化・植栽工の基礎と応用　〃
空中写真による地すべり調査の実際　鹿島出版会
切取斜面の設計から維持管理まで
（奥園　誠之）　〃
鉄筋コンクリートの設計（F.レオンハルト等）　〃
鉄筋コンクリートの配筋（　〃　）　〃
土木施行学　（畠　昭治郎）　〃
新稿　斜面安定工法　〃
橋　1969/70　1972/73－1974/75　1978/79～1983/84
土木学会
海と海をつなぐ道　上・中・下（D.マカルー）フジ出版社
下水・廃水・汚泥処理ガイドブック　環境技術研究会
下水道必携　〃
下水道ハンドブック　（K.イムホフ等）　〃
生活系排水処理ガイドブック　〃
し尿処理ガイドブック　〃
都市ごみ処理ガイドブック　〃
街並みの美学・続　（芦原　義信）岩波書店
新しい都市デザイン　（J.バーネット）集文社

市民としての建築家　（武　基雄）相模書房
交通工学　（竹内伝史等）鹿島出版会
計測機器概説　環境技術研究会
わかりやすい公害分析・計測基礎講座
（大角泰章等）　〃
医薬品スキャンダル　（M.シルバーマン）三一書房
古代ギリシャとローマの都市
（J.B.ワード＝パーキンズ）井上書院
北海道　（八木健三等）築地書館
土木就職試験問題解答集　学隆社
土木技術職員採用試験問題集　理工図書
土木就職試験問題400選　近代図書
水のはなし　1－3　（高橋　裕編）技報堂出版
都市の水循環　（押田勇雄編）日本放送出版協会
公害防止の技術と法規　産業公害防止協会
環境白書　昭和61年版　大蔵省印刷局
「アテネより伊勢」へ　（堀川　勉）彰国社
建築美学　（R.Scruton）丸善
合理主義の建築家たち　（D.シャープ編）彰国社
驚異の工匠たち　（B.ルドフスキー）鹿島出版会
神殿と神話　（渡辺　豊和）原書房
図解建築法規の学び方　（山田　修）オーム社
目でみる住まいの歴史　（山口　廣）井上書院
住まいの風土記　（菊岡倶也等）都市文化社
東京ポスト・モダン　（松葉　一清）三省堂
日本のポスト・モダニズム　（　〃　）　〃
数寄屋の思考　（石井　和紘）鹿島出版会
流民の都市とすまい　（上田　篤）駸々堂出版
図説　都市の世界史1－4（L.ベネーヴォロ）相模書房
現代建築の潮流　（V.M.ラムプニャーニ）鹿島出版会
21世紀建築のシナリオ　（尾島俊雄編）日本放送出版協会
情念の幾何学　（網戸　武夫）建築知識
日本の建築家　丸善
3：六角鬼文
4：大江　宏
分り易く図で学ぶ建築一般構造
（江上外人等）共立出版
建築構造のはなし　（M.サルバドリー）鹿島出版会
図解建築構造力学の学び方　（槙谷栄次等）オーム社
木造住宅の形と骨組　（神山　定雄）彰国社
建築設計資料集成　索引　丸善
透視図の描法　技法堂出版
DA建築図集　複合市民施設1　彰国社
建築のDESIGN＋DETAIL鉄骨造1　〃
図解木造建築図面の見方・かき方
（尾上　孝一）オーム社
建築パースカラートレーニング
（小豆島一男等）理工図書
初めて学ぶ図解ツーバイフォー工法　井上書院

ツーバイフォー・ハンドブック　鹿島出版会
新国技館の記録　〃
こんな家に住みたいナ　（延藤　安弘）晶文社
GA Houses 世界の住宅19　A.D.A.Eidta Tokyo
現代の家づくり　（砂川　幸雄）相模書房
和風住宅の知識　（小林　盛太）彰国社
木造住宅の断面設計　（神山定雄編）　〃
図解木造住宅の設計　（尾上　孝一）オーム社
木造建築　（里川　長生）理工図書
図解木造住宅設計の進め方　（山室　滋）市ケ谷出版社
ハウスクリマ　（花岡利昌等編）海青社
建築と気象　（松尾　陽等）朝倉書店
図説自然エネルギー建築のデザイン
（D．ライト）彰国社
当世建築入門　（海野　哲夫）　〃
住まい方の思想　（渡辺　武信）中央公論社
建築技術職員採用試験問題集（藤井　潔）理工図書
一級建築士　学芸出版社
二級建築士　〃
一級建築士試験学科別重要事項集　彰国社
建築就職試験問題解答集　学隆社
最新一級建築士予想問題集　オーム社
最新二級　〃　〃
交通圏の発見　（有末　武夫）鹿島出版会
ＳＤ選書　〃
199：都市住居の空間構成（東　孝光）
201：自然な構造体　（F.オットー等）
日本住宅史の旅　（中田清兵衛）理工図書
建具のはなし　（高橋　康夫）鹿島出版会
ステップ方式による測量演習500選
（吉田　信一）山海堂
建物の火災と安全のはなし　（牟田紀一郎）鹿島出版会
これだけは知っておきたい建築仕上材料の知
識　（寺内　伸等）　〃
これだけは知っておきたい建築家のための瓦
の知識　（坪井　利弘）　〃
日本壁のはなし　（山田　幸一）　〃
畳のはなし　（佐藤　理）　〃
昼光照明の計画　彰国社
新訂建築製図　〃
これだけは知っておきたい日照計画の知識
（田中　授等）鹿島出版会
住まい再考　（荒木兵一郎等）彰国社
住まいの文化　（中村　圭介）新日本出版社
玄関　（佐藤　守男）井上書院
食堂・台所　（　〃　）　〃
ベッドルーム　（　〃　）　〃
浴室・洗面・トイレ設計マニュアル
（永森　一夫）彰国社

アパートの文化史　エムジー出版
建築と水のレイアウト　彰国社
インテリアコーディネィター資格試験問題演
習と勘どころ　日刊工業新聞社
大学高専機械工学実験　産業図書
朝倉機械工学講座　朝倉書店
7：機構学　（林　国一）
8：計測と制御　（森田矢次郎）
10：機械材料　（福島貞夫等）
11：機械要素設計　（川北　和明）
12：機械製作法　（阿武芳朗等）
14：内燃機関　（五味努編著）
15：機械製図　（大柳　康）
図解とフローチャートによる機械材料試験
（金子栄一等）技報堂出版
機械力学入門　（辻岡　康）サイエンス社
材料の強度と塑性　（佐藤　和郎）森北出版
パソコンを活用した機械要素設計
（櫻井恵三等）日刊工業新聞社
演習機械運動学　（高野政晴等）サイエンス社
機械設計におけるタブーガイドブック
（小栗冨士雄等）共立出版
パソコンによる機械設計計算法
（杉田　稔等）日刊工業新聞社
機械加工計測技術　朝倉書店
機械工作概論　（萱場孝雄等）理工学社
切削加工　（佐藤　素等）朝倉書店
実用ヒートパイプ　日刊工業新聞社
蒸気原動機　（八田桂三等）森北出版
内燃機関計測ハンドブック（八田桂三等編）朝倉書店
写真集　流れ　丸善
自動車力学　（景山克三等）理工図書
機械工学・金属工学科就職試験 1987　一ツ橋書店
機械就職試験問題解答集　学隆社
材料力学例題演習　（榎本　信助）国民科学社
工作機械
2：マシニングセンタ　大河出版
自動車に生きた男たち　（刀称館正久）新潮社
初めて学ぶ電気基礎　（和田茂博等）オーム社
新編電気工学講座
30：電気・電子工学実験１（山田十一等）コロナ社
情報工学基礎講座　オーム社
2：ハードウェア技術　（田丸　啓吉）
5：ソフトウェア構造　（丸山　武編）
計算機方式　（高橋　義造）コロナ社
制御工学入門　（黒須　茂）パワー社
現代マイコン機械制御　（中野善之等）オーム社
エレクトロニクスのための量子物理
（S.N. Levine）丸善

電子回路のノイズ技術　(山崎弘郎等)　オーム社
マイクロコンピュータの基礎
(D.E.ジョンソン等)　東海大学出版会
ディジタル回路設計ノウハウ　(中野　正次)　CQ出版社
増幅回路設計のポイント　(鶴田　孝磨)　産業図書
光コンピュータ　(稲場文男編)　オーム社
はてな電気とは　(時田　元昭)　電子技術出版
電気の理論　(若山芳三郎)　啓学出版
エレクトロニクスの基礎　(鈴木　清等)　〃
電気機械とその応用　(近藤健三等)　〃
発電から利用まで　(森本隆之等)　〃
エレクトロニクスの応用　(若宮芳三郎等)　〃
コンピュータの基礎　(　〃　)　〃
電気理論・計測　東京電機大学出版局
電験第3種直流・交流回路計算のテクニック
(田中久四郎等)　電気書院
上級無線従事者国家試験受験用　既出問題と
その解説　無線技術士法規編　無線従事者教育協会
ロボットと社会　(長谷川幸男)　岩波書店
ワイヤカット放電加工技術　(小林和彦等)　日刊工業新聞社
金型のCAD／CAM　(吉田　弘美)　〃
技術者の拡散入門　(P.ギラルダンク)　共立出版
形状記憶合金　(舟久保熙康編)　産業図書
溶接要論　(岡根　功)　理工学社
溶接加工　(田村　博)　森北出版
ファインセラミックス　マシニスト出版
鋳物のおはなし　(加山延太郎)　日本規格協会
溶接のおはなし　(手塚　敬三)　〃
よくわかる表面処理作業法　(矢野雄三等)　理工学社

## ＞6　産　業＜

造園学　(高橋理喜男等)　朝倉書店
国土利用白書　昭和61年度　大蔵省印刷局
土と日本人　(山下　惣一)　日本放送出版協会
茶の世界史　(角山　栄)　中央公論社

## ＞7　芸　術＜

岩波美術館　テーマ館第8室　岩波書店
書に親しむ　(小松　茂美)　平凡社
版画事典　(室伏　哲郎)　東京書籍
オフロード・ライダー　(賀曽利　隆等)　晶文社
講座アニメーション
3：イメージの設計　(池田宏等編)　美術出版社
続音楽おもしろゼミナール　(長田　暁二)　誠文堂新光社
落語食物談義　(関山　和夫)　白水社
テニススーパードリル800　(小西一三等)　旺文社
スウェーデン・テニスの秘密(B.ストランドバーク等)　〃

北アルプス　山と渓谷社
南アルプス　〃
男の勝負に言い訳はない　(星野真里子等)　日本実業出版社
ライブガイドひろしまトラベルート29　弘済出版社

## ＞8　語　学＜

新文章辞典　ぎょうせい
昭和日本語の方言
6：九州東部域三要地方言　(藤原　与一)　三弥井書店
英語表現辞典　研究社出版
文集日本語について　(大野　晋)　日本書籍
現代文章作法'86　講談社

## ＞9　文　学＜

世界文学全集
Ⅲ－9：アイヴォンホー　(W.スコット)　河出書房新社
古典を読む　岩波書店
23：梁塵秘抄　(加藤　周一)
24：江戸狂歌　(なだいなだ)
カタリ鴉　(青野　聰)　集英社
恋文　(富士　正晴)　彌生書房
世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド　(村上　春樹)　新潮社
完訳　日本の古典　小学館
28：大鏡1
30：今昔物語集1
37：方丈記　徒然草
41：宇治拾遺物語2
50：好色一代男
エリー　(J.B.タッカー)　保健同人社
トリスタンとイゾルデ　(R.ワーグナー)　新書館
日曜日に老いたる母は……(W.シュクシーン)　群像社
本日は悲劇なり　(赤川　次郎)　中央公論社
最終便に間に合えば　(林　真理子)　文藝春秋
糸の別れ　(林　郁)　筑摩書房
雪花　(畑山　博)　潮出版社
片翼だけの天使　(生島　治郎)　集英社
不忠臣蔵　(井上ひさし)　〃
青桐　(木崎さと子)　文藝春秋
地の音　(小檜山　博)　集英社
忍びてゆかな　(大原　富枝)　講談社
「雨の木」を聴く女たち　(大江健三郎)　新潮社
恋文　(連城三紀彦)　〃
蒲田行進曲　(つかこうへい)　角川書店
化身　上・下　(渡辺　淳一)　集英社
飛ぶ夢はしばらく見ない　(山田　太一)　新潮社
演歌の虫　(山口　洋子)　文藝春秋

わが家は森の中　（玉木　英幸）理論社
心の夜想曲　（遠藤　周作）文藝春秋
ムツゴロウの博物志・続ムツゴロウの博物志
（畑　正憲）　〃
アウトサイダーからの手紙　（犬養　道子）中央公論社
死なないで　（田辺　聖子）筑摩書房
はいすくーる落書　（多賀たかこ）朝日新聞社
諸君！この人生大変なんだ　（山口　瞳）講談社
人しれず微笑まん　（樺　光子編）三一書房
愛，深き淵より　（星野　富弘）立風書房
別人「群ようこ」のできるまで
（群　ようこ）文藝春秋
母恋い放浪記　（西村　滋）主婦の友社
ばらの心は海をわたった　（岡本文良等）PHP研究所
散りいそぐ花の哀しみは　（渡辺みよ子）風媒社
ジェニーの日記　（Y.ブルーメンフェルド）サイマル出版会
かものファップは知っている（J.ダッジ）新潮社
青春の賭け　（T.ディビス）集英社

**岩波新書**　岩波書店
319：色好みの構造　（中村真一郎）
320：文明開化　（飛鳥井雅道）
321：現代焼酎考　（稲垣　真美）
322：わが戦後俳句史　（金子　兜太）
323：国際連合　（明石　康）
324：書斎の王様　（「図書」編集部）
325：「文明論之概略」を読む　上
（丸山　真男）
326：　〃　中（　〃　）
328：歌右衛門の六十年
（中村歌右衛門等）
329：外国語上達法　（千野　栄一）
330：ワーグナー　（高辻　和義）
331：ことばとイメージ　（川本　茂雄）
332：コンピュータと教育（佐伯　胖）
333：第五折々のうた　（大岡　信）
334：岸田劉生　（富山　秀男）
335：自民党と教育政策　（山崎　政人）
336：中国近現代史　（小島晋治等）
337：国会という所　（中山　千夏）
338：法を学ぶ　（渡辺　洋三）
339：新生児　（山内　逸郎）
340：農民哀史から六十年（渋谷　定輔）

**岩波ジュニア新書**　〃
103：戦争のなかの青年　（大島　孝一）
104：シェイクスピア名言集（小田島雄志）
105：卓球・勉強・卓球　（荻村伊智朗）
106：イラスト青春アドバイス（水森　亜土）
107：ギリシア人ローマ人のことば
（中務哲郎等）
108：古代遺跡見学　（直木孝次郎）
109：20世紀理科年表　（山口　幸夫）
110：中国に残された子どもたち
（古世古和子）

**カラーブックス**　保育社
696：日本の特急列車'86
697：茶室と露地
698：混浴温泉
699：心臓病
700：山菜料理
701：ベランダの四季
702：国鉄の電車'86
703：讃岐味どころ
704：多肉植物
705：鉄道写真入門
706：女性専用露天風呂

**岩波文庫**　岩波書店
ニコマコス倫理学　上・下（アリストテレス）
正法眼蔵随聞記　（懐奘　編）
歎異抄　（金子大栄校注）

**角川文庫**　角川書店
旅人　（湯川　秀樹）

**講談社学術文庫**　講談社
進化とは何か　（今西　錦司）
論語物語　（下村　湖人）
宇宙の構成　（宮本正太郎）

**講談社文庫**　〃
死を見つめる心　（岸本　英夫）

**新潮文庫**
1984年新潮文庫の世界文学（ドイツ，ロシア，その他の国）のうち品切を除くすべて

**寄贈図書**

| | |
|---|---|
| 日本道路公団三十年史 | 日本道路公団 |
| 六十年のあゆみ | 建設省福山工事事務所 |
| 谷下市松博士記念論文集 | 谷下市松 |
| 九州工業大学七十五年 | 九州工業大学 |
| 小説　日本興業銀行第一部 | 株式会社日本興業銀行 |
| エンジョイエレキ | 株式会社東芝 |
| JECCコンピューター・ノート | 日本電子計算株式会社 |

## 図書委員会からのお願い

図書委員会では、図書だよりに掲載する原稿を募集しています。読書感想文、読書に関するエッセイ、図書室への希望、イラスト等を、図書委員または図書係へお寄せ下さい。学生諸君の投稿を期待しています。また、図書室に備えられていない本・雑誌で、読みたいものがありましたら、申込み用紙が図書室のカウンターに常備されていますので、書名等を記入して投書箱に入れるか、直接図書委員まで申し出て下さい。

なお、本年度の図書委員および図書係は以下のとおりです。

| | | |
|---|---|---|
| 図書主任 | 建築学科 | 藤井　健 |
| 図書委員 | 一般科目 | 岩根三邦 |
| 〃 | 〃 | 小山通栄 |
| 〃 | 機械工学科 | 岡部卓治 |
| 〃 | 電気工学科 | 鈴村信也 |
| 〃 | 土木工学科 | 小堀慈久 |
| 〃 | 建築学科 | 正野崎昭二 |
| 図書係 | 係長 | 土佐智義 |
| 〃 | | 石間悦子 |
| 〃 | | 金川洋介 |

## 編集後記

本号より、2つのシリーズを新たにスタートさせました。わが校の位置する阿賀の町、延いては広や呉の周辺の自然や風土を紹介する「郷土の自然」と、他高専や近隣の図書館を探訪する「図書館を訪ねて」とがそれです。しばらく継続するつもりですので、希望や忠言をお寄せ下さい。

「読書感想文」は、例年の如く「国語」の大林教官や担任の先生方のご協力を戴きましたが、今回は、1年のC・A、4年のM・Eの各1篇、3年は「私の読書論」としてE・Cの各1篇とし、5年生には各学科「哲学書」に挑んでもらいました。次号（来年2月発行）には、1・3・4年の残りの学科の感想文と、2年「倫・社」の夏休暇課題を各学科1篇掲載の予定です。ご期待下さい。

西校長には、8月下旬逝去された本校初代校長、葛西先生の追悼文を投稿して戴きました。皆様と共にご冥福をお祈りしたいと思います。

その他、「電算化の構想」「利用案内シリーズ2」本校の学生にも是非読んでもらいたい「一冊の本」、「新着図書案内」と、かなりバラエティーに富んだ紙面になったことを喜び、関係の皆様に感謝いたします。

なお、似顔絵は4Aの福原則夫君の手を煩わし、イラストは、一般科目選択「環境と生物」のレポートの一部を借用しました。

（岩根記）